

おおてみち

第126号

令和6年(2024年)1月1日
滋賀県立安土城考古博物館

滋賀県立安土城考古博物館第69回企画展 滋賀県立琵琶湖文化館地域連携企画展

近江の文化財を継ぐ —修理・複製・復元—



香場遺跡
(福生郡日野町三ノ坪)

発見品 遺物出土状況



発見調査



発見品から出土した土器 (滋賀県産)



修理前



制作止め



湿式クリーニング



付け廻し



修理後

業平東下り回
月岡雪隠帳
(貞徳文化館蔵)

令和6年2月10日(土) - 4月7日(日)

開館時間 午前9時～午後5時 ※ただし、入館は午後4時30分まで

休館日 2月13日(火)・19日(月)・26日(月)・
3月4日(月)・11日(月)・18日(月)・25日(月)・4月1日(月)

入館料 大人600円(480円)/高大生360円(290円)

※小中生・県内高齢者・障害のある方は無料。※()は20人以上の団体料金です。
信長の館との共通券 大人980円/高大生540円



— 近江風土記の丘 —

滋賀県立 安土城考古博物館
Shiga Prefectural Azuchi Castle Archaeological Museum

(修理工程画像提供: 株式会社坂田豊峰堂)

近江の文化財を継ぐ

— 修理・複製・復元 —

会期 令和6年2月10日(土)～4月7日(日)
会場 企画展示室

長い時を経てきた文化財の多くは、脆く壊れやすい状態にあります。文化財の収集・保管を行う博物館は、それらを温湿度・光・化学物質の影響、虫・黴・動物・人間・災害による破損などから守り、後世へと受け渡す使命があります。一方で、博物館が行う展覧会は、文化財を保管環境から移動させ、保存状態に少なからず負担をかけます。保存の使命がありながら、なぜ、博物館は展覧会を行う必要があるのでしょうか。本展では、安土城考古博物館と琵琶湖文化館の収蔵品から、修理・複製・復元の3つの手法を中心に紹介し、文化財の保存における「もの」と「人」の関わり的重要性について展覧します。

【主な展示資料】

- △県指定文化財、□市町指定文化財
- 選択集十六章之図 高田敬輔筆（琵琶湖文化館蔵）
- 仙人図 望月玉嬪筆（琵琶湖文化館蔵）
- 鯉魚図 葛蛇玉筆（曹源寺蔵）【前期】
- 聖徳太子孝養像（長命寺蔵）【後期】
- 仏涅槃図（西明寺蔵）【前期】
- 浅井長政画像復元模写（当館蔵）【前期】
- 織田信長画像（徳見寺蔵）【後期】
- 織田信長画像復元模写（当館蔵）【後期】
- 黒田長山4号墳 短甲（滋賀県蔵）
- △上御殿遺跡 短剣鑄型（滋賀県蔵）
- △烏丸崎遺跡 木偶（滋賀県蔵）
- 番場遺跡 網代（滋賀県蔵）
- △鍛冶屋敷遺跡 鑄造関連遺物（滋賀県蔵）
- 源内峠遺跡 製鉄関連遺物（滋賀県蔵）
- 木瓜原遺跡 製鉄・梵鐘鑄造・土器生産関連遺物（滋賀県蔵）

展示替え 【前期】2月10日(土)～3月10日(日)
【後期】3月12日(火)～4月7日(日)

〈企画展関連講座〉

3月9日(土) 13時30分～15時
「復元！紫香樂大仏の鑄造技術」
講師 大道和人(当館)
参加費 三〇〇円

3月17日(日) 13時30分～15時

「文化財修理で引き継ぐ心
— 近江の文化財修理を例に —」
講師 坂田さとこ氏(株式会社坂田墨珠堂)
参加費 五〇〇円

会場 当館2階セミナールーム

定員 一〇〇名(往復はがきによる事前申込)

〈ギャラリートーク〉

3月9日(土) ①10時30分、②15時

※入館料が必要です。

〈親子たいけん博物館〉

3月24日(日) ①10時30分～12時、②14時～15時30分

「ミニ屏風をつくろう！」

※要予約(2月24日(土)から受付)

定員 各10名

参加費 七〇〇円

※事情により行事内容や日時が変更になることがあります。最新の情報は当館ホームページでご確認下さい。



鍛冶屋敷遺跡 溶解炉 (滋賀県提供)



△業師十二神得像(新宮神社蔵)
【後期展示】 修理後



△浅井長政画像(小谷城保勝会蔵)
【前期展示】



収蔵資料紹介

軽野塔ノ塚廃寺出土の 湖東式軒丸瓦

湖東式軒丸瓦 一点

時代 七世紀後半

当館所蔵

軽野塔ノ塚廃寺は愛知県愛荘町蚊野・軽野に所在し、古くから塔跡とみられる土壇や礎石状の巨石が知られていました。ほ場整備に伴う発掘調査では、

金堂跡とみられる礎・瓦敷きの遺構や、門跡・寺域を限る区画溝・二基の瓦窯などが確認され、法起寺式の伽藍配置が想定されます。特筆すべき遺物として、中房の中央に一個の蓮子を配し、外区内縁の珠文・外区の圏線をもつ地域性の強い軒丸瓦の、湖東式軒丸瓦が出土しました。湖東式軒丸瓦は、愛知県愛荘町の野々日廃寺や小八木廃寺、妙園寺廃寺のほか、蒲生郡竜王町の雪野寺跡や東近江市綺田寺、長浜市華寺廃寺など、湖東地域や湖北地域の渡来系氏族との関連が想定される寺院などで確認されます。古代の愛知郡では、秦氏の一族とされる渡来系氏族の依智秦氏が郡司の主要ポストを独占するほど、大きな勢力を有していたことから、軽野塔ノ塚廃寺も、七世紀後半に依智秦氏が造営したと考えられます。

今回紹介する資料は、丸く突出する中房の外周に圏線をめぐらし、九個の蓮子を配するもので、外区内縁に二七個の珠文をもつ単弁六葉蓮華文の湖東式

軒丸瓦です。これとセットとなる軒平瓦は、弧文の間隔が広く、下端付近に六個の指頭圧痕をもつ三重弧文軒平瓦と考えられます。軽野塔ノ塚廃寺では、単弁八葉蓮華文や複弁八葉蓮華文など、数種類の湖東式軒丸瓦が知られています。

湖東式軒丸瓦の詳しい系譜は、よくわかっていませんが、朝鮮半島の大通寺跡や西穴寺跡出土瓦と瓦当文様の類似しており、百済の寺院との関連性が指摘されています。また、近江のほか、福井県や岐阜県長野県からも数ヶ所の寺院跡での出土が知られており、瓦工人の移動や近江からの瓦製作技術の伝播が想定されます。

(北原 治)



軽野塔ノ塚廃寺出土の湖東式軒丸瓦・三重弧文軒平瓦 (当館蔵)

甍る安土城跡

平成の調査整備事業を振り返る その2

平成の安土城調査整備事業は、城内各所でさまざまな調査をしてきました。「城内主要道確認調査」などの道の調査もそのひとつで、大手道、百々橋口道、搦手道で、遺構の内容や残存の状況などを確認する調査を行いました。

大手道は最も早い段階で着手した調査でした。調査前の大手道は道幅3mほどの石段が大手口から山腹に向かつて延びていましたが、発掘調査を始める時、なんとその石段の下から築城当時の大手道が姿を現したのです。それが今現地で見ることのできる一直線に山腹まで登る大手道の姿です。また大手口の調査では、虎口が4箇所もあることがわかり、その特異性が注目されました。

搦手道の調査では、山麓部の道には石段がなくスロープ状になっていることがわかりました。荷車などを通しやすくするための工夫とみられることから、台所道とも呼ばれる搦手道が物資搬入のための道であることが、遺構からも証明されたのです。また、皆さんもよくご存じの三巴文軒丸瓦の金箔瓦が出土したのも搦手道の調査でのことでした。

令和の調査でも、このような大きな発見があるでしょうか。今後の調査にご期待ください。

(滋賀県文化財保護課)



発掘調査中の大手道

